911.3
ト
雑

東撰集雜

阿雲子孫遺の孫

松のうさいろとまるる混本林の遺
藻を省略して大祥忘れ法莫と
いとかむ事とまるる劣

熊谷藏書

閑さやきしの月を松の尾
とまさへ猿も袖のうへ哉　遺孫阿

石翁仙

嬉しうも尾越の鳴れ鳴連く　一具
偽くらの迷く骨もれる坂　夷男

無法けるに麻の葉ふるくなり　祖仏
第ふるきを思ひ屋根らへれ　蓬山
不似合く功者な沙弥の小算用　西弓
おちつかのくと船つなぐ岸　沙蓮
雪はえ空をまきたるかりがねの　伯遠
ふるく塩ひ引けるかの　たよ女
鮮(イキ)く小者をうく目を吹て　清民
祝つて菜ふり　元結の屑　英泉

初秋芋のくもりうなる月の夜　東里
鳴るあつさ一茎ふるき　丁雨
盃うけて主人は鉢屋のをやり出し　雪之
蘂(ミコ)て法いせ一筆こうるよき　大費
きつ掃の庭奉ら蔭起掃ひ　士由
稲妻の中の芋を如菜　洋々
月きの一のいきひく調度育ら白　坡山
季れつをやるもの　肩さき　芳象

乳香ゝ嚔ゝ姫孫遠き　緑深
高よとゝよゝめ風鈴の音　二丘
かつゝゝと土用芽ふきゝゝ柱　橋月
肱杖の泥泉ゝ苔ゝ沐しき　多休
咲くゝして痛のゝめかゝなき遠　吟雲
めゝ拍鈴高とのゝく碓塩　一保
卵ゝゝ赤野ゝゝく水ゝ入　梶居
野ゝ分の行ゝ用久根ゝゝ高き　杏園

第ゝ月柳葉の下ゝゝゝゝく　巨鈴
雲岩一ゝいつゝ相撲荷　柳志
月影目ゝゝ人の誘引あり　任河
すのゝゝゝ高ゝなる嶽（シラリ）す　江三
寝ゝ生の小路ゝけゝ芽ゝ　赤月
色ゝゝ付のおくゝく　茅亜
拾ゝ花れゝたゝゝく　心阿
原のゝゝゝ宮ゝゝ　雨　易香

無常懐旧釋教

[illegible]

同法　遍阿

[illegible]

同法　遍阿

[illegible]

同法　道阿

[illegible]

遺才　超昌

[illegible]

青牛文　其牛

京の秋は葉や花は夏尺草　三喜 秋　千秋

誰かとめ稀に今さら掃除や跡に萩　大妻 三　良黄

石翁祐昌和尚本葬　九月十二日導師大千寺　英天和尚

花も野ふかくへだゝりの法の北原　飛田 秋　英天

茶毘執りの日にて過去在りし老若山に集ひ衛に溢るゝは
法の道にひらく耳に一しほ感泣にむせびあへ寸

野も山も隔てたり秋しぐれ

山河隔たる月の哀さもひとしくして伯父上坊の亡きあと
冬の今来て葬に式をまた一つまつるのこ　后

立すさむ岩に露置く林の雨　出羽　長四

石翁上人生前和哥好まれしかば

残月や大和詠れしかれけり　大坂　江三

拂ふの雲もなく空に照る秋の月　心阿

琴棋揃花のうらに遊び世にいかなるなれと蕉翁の
娯楽を愛されし高く初耳すさまじく
は今さら秋やまたの思ひ出さしむ

業尽きぬ枕ならべてかなしみの秋

守一山主群雲比丘
伊達院主絶三和尚　と淵明忌の遠ちかく詩しつゝ

平稱[illegible]の供養

百期忌辰の宣塔を造りて

[illegible] 神や 家の前

翌年二月墓表

[illegible]の上や 梅も植[illegible]墓 [illegible]

白石樹 還阿

父[illegible]滅[illegible]

[illegible] 枝を[illegible]山斜[illegible]

俗歌人 妙女

[illegible]や 苔[illegible]墓 [illegible]

十象法子 祐彫

墓[illegible]白[illegible]

[illegible]月[illegible]の墓[illegible]

八象 祐彫

[illegible]一味の蓮[illegible]石[illegible]兄の小祥忌[illegible]

[illegible] 向[illegible]

岩樹樹 君山

[illegible]月の[illegible]

[illegible]

獨云[illegible]月の友、如月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅巢

七回越忌巢供養會式　香司　田中苗樹重
讀師　寺香坊

[illegible]　巷山

四方英賢、三る家人、結縁のひとゝ山[illegible]
[illegible]

物いとすゝめるこのこゝや菊供養

一自高人太作仙倭歌風格孰相傳

奥君不用薦蘋藻供養煙雲水雪筵

庚戌九月廿九日為修長閑房尊霊冥福設
雅集余亦焉因作小詩敢代清酌之奠　白川　空同徳
再拝

[illegible]

親相　のこ

[illegible]　其山

大雪てさひとゝ灯[illegible]　江三

[illegible]

氏家浄寛居士の[illegible]

[illegible]

[illegible]

長男若[illegible]神[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八十年　[illegible]雁門

[illegible]　七十五歳　[illegible]人

[illegible]

[illegible]　九畦

[illegible]　大洞

[illegible]　大車

[illegible]　六槐

祖父槐二居士いまそかりし時白牡丹を[illegible]世を[illegible]

[illegible]

杖は果すして今將梓載せり誰かし文化の頃より松窓
蘇ちる茅屋ヶ節を傳めけし翁ミ二三編龍
日稿しさ見て一句を吟し玉ひしよれて韻を知一葉と
なれる拭拂ひてらるにる予人の記念とならぬさるハ
去年好ほりハ祖父の遠方忌にてある玉へと聯さる事
ありて供養はなかさりまおり遠忌ハ此卯月まぬ周忌あ
るやうくとかうこ長谷禅房ニ四方英雲の佳句を称き
まる心ゆり年え咲出ハ一朶の白蓮を備ハ奉りよし
於る法会あり一二三堂門遠るゝ鉄斎の扶をうる不まめて

　蓮のくるはおもひけや白ふくさ　出羽 槙緑峰 哲首

父のおもひのりける時

　曾さ事耳ニ残りてなつかしさ　武蔵 一箇

亡師椿月居ニ曽庭なる名越檀林の老職ニ住きれ
給ふなく妙なる月の字を以て世をさりしかハ追悼

　蓮の香を残してや月のかくれけり　出羽秋 清周

　一声ハ君かあらぬ暑の哉　賢皓

仏祖をもしのふ世の名建細をさして追ひ椿月翁霊前
伯遠の霊前を拝りて

　古池や今の相経の読りしめ

紙峰仏和七忌墓前

　手の汗ハ珠数ニ志ミ込二月かな　君秀

若非仏大祥忌ニ逢ひハ因縁なつかしされハ懐旧編ヲ
せまり呼ひ出して五百羅漢ちまりくる

秋の夜やおれは居ながら仏達　玄子

宗城の橘月和尚遷化より先立世をいとひ給ひて

散るは咲はなをしてや岸の外尾花　雲州　亀石

逸禅居士拈香

氏嶋田号雲鴻江戸人以儒業文画鳴於世享
年四十己酉九月望二卒葬于吾大悲后山

四十余年秋の胡蝶は夢さめてのちゝ

葬母老様をせしめし後松露の回向に帛して

目の露をかくさぬに石蕗花

まどろしなかりしとき

しくれや咲の庭の月やしこゝ家　武陵　揶布

士由居士いまや世に出て異他名藻稿を将観せしめ世に
の剖劂の日をまたれ待給ひ泉下の旅ゝおもむき給ふを哀す

杖によけを西への名残や雪の笠

宗仏は胡らかのりてやかし宗　甲斐　嵐外

市東報宗中状一句を送る抄になき
かもとかゝらぬ

一切経報読終志報はや一とせの春を迎へ

経の灯とのむる向ふ初かな　一具

京まのぼりしとき

九重にかすみこめるやまぶきの種

吉原の掃除めでたく彼岸ぶし　山城　伝年

人さて誘うつゝの湿　抹　傍　不見

何ものぞとおもふや祈る　傍　一具

茶さゝやゝ飯こうて戸なしの　巨勢

孫日のうやけを経る　麻ぶし　茶柳

肩ちゝか隔すかけの彦の　太吹

灌仏や茶烟尺ゝ寸　橋　伝　芦葉

加ゝ寸ゝ桂把の古茶や仏生会　也明

頼ゝつけて来ゝや古堂の孫ゝ元　文水

茶ゝ寸ゝ茶原や夏百日　梅井

方ゝ寸ゝ人のゝ橋さく　深ゝ尼

夏ゝ寸ゝや古ゝ遊ゝ　葛古

川形ゝ寸ゝ家ゝや古ゝ　茶水

極楽ゝ寸ゝ家ゝ踊ゝ形　西吾

茶ゝ寸ゝ尼ゝ寸ゝ梅ゝ　石山

九重の御所にはべりや所品の種
古京の御深めたるは彼岸ぶ　山城　伏年
人去て深うつるめ湿　抹　像　下毛　赤見
何ものぞとおいたや称ん　像　一具
茶さくや紅ら飯うして戸なしる　巨鈴
孫日のやけを経ふ雷　茶柳　茶形
肩ちかに偏寸かけの唐四方　太吹
灌仏や茶烟尺寸　橋　作　芦葉
加ちら桂把の古茶や仏生会　也明
頼ちつけて茶や古堂の孫元　文水　寅延
茶ちの四ひちつ茶碗や夏百日　梅井
方の蕨人のさめも　樗さく　深尾　仙平
夏ちの茶やちの　い　ふちさ　葛古　伝吹
川形ちつ家や高ちつ　茶形　茶形
物蕨は茶ちさもち家　踊ち形　西方
茶ちや色尾ち坊や　梅ちち　石山

作者は門弟なれども略す　　柳葉

於香林寺興行　夫二夜三日法席ありける時

木々の中に仏ぞ法の華　　律太

さそひきて傘おろす十夜のな

常月来の人は見られけり十夜かな　出羽　三代女

芭蕉忌　　桃木　泳柳

ちるもみな蓮の花やや枯尾花　　古樵　如く

ちる紅葉や思ひ出さるる岐阜の旅　　桃居

山吹ちるさまの発句の書式この事

出羽　志角

ちる紅葉のなりにやにほひ越

今は世の称ふるにやや新敢

丶野ゆ

立花侯　肖友

青やちるさまもなきやや神無月

武蔵　波路

寄の灯ともしあるにや叩

寄に出て耳に尊に佛名　一句

臘八一句什麿生自答曰

寄巖よりてのぶる寸桂ふる　出羽　古翠

[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

題九相圖

[illegible]　　[illegible]

肖像自讃

[illegible]　　[illegible]

人間忽〻[illegible]　　[illegible]

黄鶴の[illegible]　　[illegible]

生[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十界詠物　　為父母廿廿日里長命寺納之

地獄　[illegible]

餓鬼　[illegible]

畜生　[illegible]

修羅　[illegible]

人間　[illegible]

天上　[illegible]

色聞

緑覚

菩薩

仏果

三月十七日

衆怨悉退散の心を

遂著於本人

秋蘿

日光寺の記

火坑変成池

殺生戒

倫盗戒

邪婬戒

妄語戒

[illegible]　尼法　梅程

飲酒戒

治聾酒や雛[illegible]　拙[illegible]　拙笥

善悪心論　衆生愚蒙不可強度の心を

解脱のまくら寐へ〳〵巨燈〳〵

述懐贈答戀雑躰　詩句画題　人倫

元日[illegible]　立春の庵杖　如竹　悠く

[illegible]人[illegible]や松の内　信徳　主水

[illegible]　出雲　堅菜

此一句を[illegible]心操[illegible]

[illegible]人[illegible]四つ寸[illegible]杖　一[illegible]

[illegible]　仙[illegible]　仙孫

[illegible]

卯月もやなりぬ夏の川の宵寝覚
漁舟の灯り加えましとき
紫陽花の花よく咲て住職り　挙堂
この文月に奴僕から出代小町島の蒸餅をささなり
禁持探りに深掃近速らまく十まりたりぬ法子
ふるりと霧水かきりうと指むもとすりしや
まろ者罗好庭りて参り来すぬし
積の秋くはらりまか物子学　八戸中　順家
去きらつ我のやり参り焉て

身にまなく浩波賤て栗の味　弘左
たくらひや是命まさ御ふ秋出れ内　嘉り　太宝
眼て世俗し心すまり年の暮　二丘
野巷ていさふ人の中ありすさもく
春けきらけてあるく野道比学　菜宗
学り紀されて文庫へ入りくまりみ
らく秋まや紅さらり数て詩　雪江
松風山東園精舎の家のまれて

花よりは野分塩からし杜宇　仮埋　何休

折もよし絵見し茶の座の薮相撲　川又軒　琴河

宗珠興卜居於こゝ旧明神谷甫坂町の文に
よろこふ

松島をとなりにもちて冬籠

三月廿八日於瑞龍當生庵　待夕　後朝

待人をなし蛍一重の日なか宿り　素山

蛍ぬくも床やりつ妹か門柳　也明

藥柳に錦して姿見遠さかん　信夫　甫景

色ぬくとよまれす花の声ひばり　太明

花守や艸疲とさきぬおも送るか

物たらぬ袖のしまれや秋の花　梅井

辻君の我世ふ身をあらめぬ錦とも　太嘉

遊里に名をたゝせし人の残されて

誰か墓とゝふや揚屋の錬拂　由誓

亟山の墓りしは義房こし人の筆跡すさひ
年ことにまうけたるあるとしく秋の空らく
つれ神のあらひて墨楼閣一時の灰燼

[illegible]

・業人のるゝや西行法師乳山一具

職業合

出女 [illegible]

按摩 [illegible]

蕎麦賣 [illegible]

[illegible]

轎夫 [illegible]

牧人 [illegible]

伯楽 [illegible]

六部 [illegible]

面打 [illegible]

物の名 [illegible]

丙午 [illegible]

要 [illegible]

春風吾為一時来

[illegible] 立雪上 遊山

梅[illegible]苦叢清香[illegible]

[illegible]丁酉

池塘生春草

[illegible] 不字 五峯

春寒花稍遲

[illegible]葉[illegible]のまゝ[illegible] 緑野

冊[illegible]宿食客氣[illegible]餘糧

世[illegible] 田[illegible]

今日花方叢却為遠思[illegible]

[illegible] 安道 閑池

[illegible]苦[illegible]従[illegible]変得長生[illegible]種苦枝秀

[illegible]

梨[illegible]冠[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]の犬 安石 二[illegible]

信言美ならず美言信ならずと事也

いひくさくなりて折を自ら下　古峯

雨餘生晩涼

[illegible]　袁山

一鳥過ぎる

枯原や水ばかり過ぎる夏の蔭　由誓

積善家必有餘慶

[illegible]　立

大器人は憐れむ寸横れ菊　東

血氣馮河の勇

[illegible]　士由

大器不抱小量

菜の花や菊の葉おいすがる西　義　二丘

嚙菜根の事柴

[illegible]

閨怨

遥やうさ春や鶯の囀り　清民

春山訪古人不遇

咲くや梅一花を切て稿うさ　安英

留守れば戸や苔の中を風来　琴水

題安斎生新室

蓬ふくを庭や雉鯉の恋を添

題押閑主人書屋

遠業のこなたに筆れ林うれ

於港英官限時深倭人倫分題五十吟之内

大公望

時を待て風をまとなり釣糸の

蘭相如

吹ちらし雲をまとめる深草の

張儀

業くれのうちに目立寸桜哉　保峰

伍子胥

つゝ上一枚の葉れうゝ

小式部内侍

あさうの日れ出まきの葉系　彩好

祇王祇女

仲姫人遠れ形ゐ一四人の子　由紀

いもくひの僧正

味おりに葉ゝ人一年形　立

素性法師

[illegible]　緑蓑

上陽人

黄[illegible]　[illegible]　合世

無淫君

十兼也人[illegible]

富福女

[illegible]

清少納言

つゝ上一枚の墓れうゝ

小式部内侍

あさうの日れ出[illegible]

紙王紙女

[illegible]　[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]　由[illegible]

いもくひの僧正

[illegible]

素性法師

[illegible]

曾我兄弟

[illegible]

一茶翁賛

[illegible]

感謝桂氏林泉圖詩 有我叟因云桂氏北越仁良也林沈者去歳歳中所成具三十六景名堂上家賜詠云

[illegible]

似之村生村宅自画賛

[illegible] 緑蜂

巴御前

男へしよ立ひ市ノ 蘇 袴 立

敦盛ヲ

[illegible] 立

源佐殿危難の和

白百や[illegible]と潜る水のうつろ 巨[illegible]

熊谷直實

[illegible]のまて[illegible]なる牡丹ら

曾我兄弟

源仲[illegible]

一茶詠賛

[illegible]

感謝桂氏林泉圖詩 有我度因云桂氏北越仁良也林沈者吉葉歳中所成具三十六景名堂上家賜詩云

[illegible]山や[illegible]の[illegible]

似三村生村宅自画賛

蓬莱の床のまへもぬ位かな

草巣自画賛　天明七未春

花のかも夢ちらし今北京　湘上故 呑溟

春江漁楽図

棹唄に名残りや浪に船月

遊仙図

山人の背にかくれし蕨かな　安達 雲南

大黒天自画賛　呈阿部祥雲主人新居

月花にこの中をわたり種俵

須賀大足ぬし廣き家を興し子孫につゞくへんと大国神の賛もとめられける

菜もえに銭と一粒稲穂かな

神祇　賀

黄金やお前にそなへし春の酒　進 葉泉

人の目に触つゝ咲る神社梅　松谷内 東汀

初春や居妹のうちわれ人通り　忠二

自然居士の巾子種俵

須賀大宮司殿世話家と無事の縁りつて
へんと大國神の祭られ三年

第壹の義と一粒の稲穂

神祇　賀

黄金や五穀の書の注進　巢水

人の見る初つるふ咲く神の梅　松谷門　李汀

初日や国旗のうち社人通る　忠二

[illegible]

荒嶋神社　二月上旬松本市浅岸に出る

[illegible]

[illegible]

[illegible]　紅山　梅士

白[illegible]　保永　風詩

能楽宰府祭

[illegible]　[illegible]水　花の子

[illegible]　やの

物[illegible]　[illegible]　賀茂詣　一[illegible]

二の花[illegible]　[illegible]　蘆[illegible]

[illegible]　下[illegible]　一[illegible]

人[illegible]　丹波　[illegible]

[illegible]

[illegible]

陽を背中に石越し心や苔の宿

神ゐすむ苔の新や花 木槿 [illegible]女

雨さらし [illegible] 出羽 松旭

日暮れられて蓮掛めくや神の留守 石羊

人訪ひて留守の弟子も神ぶり 汁朱

古稀自祝

[illegible]の眉に指さす児や花の春 一具

[illegible]枝の風を[illegible]うめの花 二丘

巨就史七十賀

小松引[illegible]石すゑ[illegible]

信夫西根住平氏二代の家

同一家のちひ[illegible]

[illegible]やうれや[illegible]もちひの朱社春

某初会の[illegible]

太[illegible]の二[illegible] 立花 茂林

[illegible]の[illegible]春を書て

ふる枝の風をきいてうめの花　二丘

巨就皮七十賀

小松引うゑすゑ長く所千代

信夫西根住平氏二代の翁

同　米寿のよろこび聞うけてよろこぶ

いのやうれや主もちひの米寿書

某初雪の翁ゝ十賀

大雪ふりもつる家の二けうら　立宇　茂林

ゝ迄の翁　齊を書て

[illegible]の梅の花　信徳　一の屋

賀莚

[illegible]　魚涌

[illegible]　羅浮

言の葉に出るハる代樣ハ　一皇

朱深殺山ハ知命を賞し

映す糸ハ紫へ梅　柳　八十二翁　梅宮

おもひ[illegible]組文ハ還暦住居を書きこ[illegible]

[illegible]の孫可孝ハ合歓の表祝ハ仙桃軒ハ新言を添へ

[illegible]孫のまこと[illegible]の[illegible]桃の[illegible]

秀樹[illegible]ハ樹[illegible]を賀す

作　梅[illegible]

五十海完戸氏主[illegible]

集[illegible]

[illegible]る松宮軒[illegible]人七十賀　也昭

蓮葉の[illegible]の花

田中筑前守の初冠を賀しける

年ふる事を思ひやるこの間　吉門

百歳をすぎんと祈る春の雪　おほん思ひあり

多義あり夜ひろう梅白ふ　九十歳　義人

柱碩馬耳東西の孫佐嚴武槍亭にて

古く掃く柳に納る古箭ふる

みちのくに名ある関の白川の関のいにしへ古き歌ありとかたりつたへ
多くの人ありて今いにしへの跡なる若の下にうゑし桜をもとむ
とてしるべなくほろびて多賀城の碑にて天の下に
きこゆる歌枕名所物産名のみ残りて石ぶみ今もありと
いふ所ハ古き年古の名所やおほつの浦一葉舟の里なる
観音寺の石碑法師ハ皆この文字古き教ふるかりしと今無
石文ハ多くハ苔に埋もれて若干の残れるハかなきと

世の名をとゝ伝へむとのゝかいとて秋吉の一歌を毎紙ごとに
法願ゆゑ遠阿法師一巻をかゝせ給ふ
書を毎とゝ出家ゝ乃ゝ
ひもとゝ書をゝ焼ゝたゝ秋のいとゝ紙をおもゝやわ
て絡石の深ゝ色の井蔵も紙をゝ加ゝむ
いとやとゝ世ゝ記ゝ
紀の駿人
藤井遠

石の面大海のおの者ゝ
朝夕より一紙のゝ
乃ゝ
奉る付御かつゝ
志事時の後ゝの業を毎ゝ
ゝ人のけ生ゝ
口法ゝ
あゝ古ゝ

御史をたゝかひみ年有四見を云ふの原乃
宣ふおもゝ紀幸ふ神代のいにしへより中今ふ
ゆるまでの　天皇社御代の続こゝ乃ゝ
天下我治め給ひ之世乃年弥ハいと栄ゆ
改元ふ人ゝ世世絶ゆ世なるよゝ世世
いまこの表たつふ所　ふく流ゝ水のゝ世世
ふもあり計るまゝ人ふまの色ゝ世ゝのよゝ
ふ年の庭ゝ人ふ稲ふゝ稔ふ所つゝ世ゝの

過ゝ世ゝるふ以つゝふゝ言ゝゆきて弘化の
ふゝと勢ゝふゝ社ゝつまの十日所まゝ
ゆゝゝいふ日ふ法ひふ法のふく左乃楽ふ計ゝ
ゆゝ世ゝいゝゝこの所ゝ年世ゝふ大ゝふ法社
事遂所以御言ゝ世ゝ心ゝのあゝふ所
多ゝ所真ゝ四ふ起ゝゝ三年社祭乃ゝ
林檎蕉ゝふ影をゝ計ゝ芋垣の乃ゝき
わゝハゝゝふいゝ生ゝつゝ世ゝ方ゝ弾待

俗社務ハさうあるまぬてを二言ようのあるき
をきそわきまををあをとめて雲雷ふ様に
者るふ濱の生砂社好多く伊勢の国桑社
十をるこをををのををへむは於ををを面ゆきまをを
てをひを紫ハまをををあの生牧しこのをを弱を
のを今社前垣内の方へ水をを撰をを
付点あひをる中乃河をををほを様ふ多
を生新蔵長く伊をを家ある家をを

まををハ古家の社社務ふをををきををを
今我をのふ社ををををのをを方むをを
書をを一をよをををおをを筆るを冬の
推案ををををををを伊加古山の家ハ
弱ををを免ぬ大嘗祭の社社下ををを社家
ををを家を八十六箇内池永年をを
永をを一めをふをの八月の日

おもしハ古学家の考証異なるものあるをおもひ乞
今我志の不詳をまたひよりあらたむへし
書きをしてよきまひおとこを筆るへく今の
推察したまひてはんに伊加古山けの家ハ
駒はまきゝあんぬ大蔵末の杜詩下学ゝ記をまよ
しきゝ己の業をハ八十六翁内池永年志るす
嘉永たしめゝはふとしの八月の日

絡石錦

おのれらのきに月ぞめてもてあそびけるこゝろ
こゝろ〳〵ハ秋月のさゝめつゝとよりい毋つきれ分
まいりて急りさそ〇ハ蒸てよう月のひかる空の秋
か気をそうふハ蛙〳〵ゝ水西ひ〳〵にこゝひハ
暑りて月ハ又えもとかゝ〳〵この孫さいそうれく
むり〳〵ようゝも坐おすひ〳〵空の夜の
月まなくひく西年こゝを中年

石菊法師

そゝゝその二日まゝり苔つ日に述懐のうゝとそゝゝ
みゝれ毋ゝ記

絡石錦

おのしとしのさに月はめてもてあそびけるとき
こゝにいと紫月のさしめつるとよりいと多つきれ分
よりとく急りたるもいと美てよう月のはるる空の秋
かゝるときうかゝ嬉しうまし堂西ひしにこゝひい
果りて月も又えもとかこの旅さいそうれく
むしよりとも堂おりひしに空の夜の
月はたくひく西年こゝを中斗　石巖法師

そこゝの二日まかり前つ日に述懐のうたとそよ
おれ多記

[illegible]

[illegible]

おもひ

長閑房大徳三周忌追福秋懐旧

[illegible]

出雲 冨永 芳久

[illegible]

紀伊 松村 義質

[illegible]

田中 延裕

[illegible]

四田 三子

[illegible]

山田 遠貫

[illegible]

紀三井寺 實雄

[illegible]

熊代 繁里

[illegible]

山名 直豊

近藤内
百世子

本居
豊類

本居
安蔭

本居
内遠

東都
霍峰
戊申

佐藤
方定

尾崎
貞女

堤
和雄

出羽
吉田
真名冨

[illegible]

東都 霍峰 戊申

[illegible]

佐藤 方定

[illegible]

尾崎 貞女

[illegible]

堤 和雄

[illegible]

出羽 吉田 真名冨

[illegible]

仙台 保田 光則

[illegible]

役氏 健雄

[illegible]

村上 其安

[illegible]

同 知據

[illegible]

安達 本田 廣海

[illegible]

波辺 排

[illegible]

信夫伊達社盟

[illegible]

内池 永年

[illegible]

阿閣 磐根

[illegible]

斉藤 望遐

初春にとなりなる人千
代ふるとこそ思ふ松の音

赤井 夏門

秋ふかうさくるる露をおよまるる
もしられぬ思ふたもとに

佐藤 満信

春さくもの咲て尽せし
ものもむかしのまうの郷

佐藤 千村

雲ちかつ松れわるめに山ちかく
ものふ苔れあるこりまし

永倉 満雄

秋ふ思ふつるふるいまこそ
思ふこころやふるものはと

熊坂 鷹子

あ一位のうきを思ふあけをつ
秋ふかにものうつるこころ

熊坂 春定

ものあ一おのふ袖ふるやもるにに
う一秋の秋の月ハかるる信

冨田 竹廣

おなじ人武ものふの山れ秋風千
ものあ一武うけてるるこ屋ふ

佐藤 竹長

長きよれわき思にむれもるる
探うへ一つ苔ものおもふ

釈氏 御輝

歌ものもるるるるに思ふものあ一武
人ものやも月のかるるふるるむ

石井 萬葉

神無月時雨降れば人皆
佐藤 花住

月の光に見し世の友を
齊藤 金俊

問へば我かなしむ
河原 金頼

問はれぬ人の身の上
須田 金文

袖の露
役氏 安足

羽根 廣長

秋の露
大竹 千數

須田 敬村

菅野 真富貴

伊藤 祐庭

あさとかすみこめるみやまの秋霧

羽根 廣長

ちぢにもものをおもふ時にはあれども

大竹 千數

ものもけとしのこりなに来ぬ者なれど

須田 敬村

ものもふる袖やいとつ絶けき

かひあるやる代強む量式ふる人に

菅野 真富貴

あかつきに袖ぬる物とおぼゆるも

伊藤 祐庭

かなしきものは月の露

ふるさとにれ者ものをもとめ月に

いとゝ露けきまゝ袖の秋

夢にうにもあらぬ世の秋の月の
つゆのうきはしの人のもりしも

安孫子 清音

さらぬうに出し秋の月たるも
ものゝあはれや秋かぜのうら

伊達 條雄

ゆくえ四方の雲にあらぬ人のうら
こゝろうれしまつにうる秋霧

菊田 博住

思ふ人うらうらに夏のあはれ
あれるもしれ友をもうらむ

芳賀 繁雄

こゝまのうしに思いそかぬ汁
秋のゆふ夏ものあはれ

齊藤 布春

むしのこゑあひめぐる書の物
月ゆゑあるよ人のおもひけ

飯塚 大直

おすひいる夢れそれおこゝ
月ゆゑつゝゝあるゝ

鳥山 秀樹

ゆくゝ迄て物あるゝ歌をん
実まつ秋の月ゆめてなる

佐藤 武雄

尺ゝ程遊ぶ一の友のゝれく
風や月れ隈ゝあるゝ

久保 金豊

秋のおれつゝかゝあ新あるゝ
ゝ世のゝいもゝまゝ

安齊 忠人

[illegible]

稲村 足穂

[illegible]

角田 正忠

[illegible]

高橋 重常

[illegible]

宍戸 道門

[illegible]

佐藤 石麿

[illegible]

久保 篤見

[illegible]

三田村 秋濤 [illegible]

[illegible]

菊田 関雄

[illegible]

[illegible]

久保
篤見

菊田
関雄

おのゝ[illegible]せよ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]おれ病牛かゝつけて
四方九國にさゝやひろまり[illegible]しあの[illegible]の[illegible]
つゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ひろまりはあの[illegible]大塚九洋
ある家家にあり[illegible]りにあんさ[illegible]
れ数[illegible]遠く越[illegible]やひりんめ[illegible]
[illegible]の秋[illegible]
[illegible]に[illegible]月
の始め[illegible]ふ
[illegible]

[illegible]に傾き[illegible]
につ[illegible]
[illegible]
[illegible]

石翁[illegible]
遜阿

[illegible]九[illegible]法子祐定[illegible]
[illegible]
案に[illegible]十五
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世に思ひ出もなく　　おふしく

法爲のむのりの小草の露繁けれ

あはれやかゝる苔のした露

赤ノ弟
祐定

論爲のことは絶かしこくまもりて

此秋を終ぬる見身にしるく

降るなさけの露の玉の繁

跡とむる後まつこのしの昔なきかゝる泉下に

いくとせか経絶ぬく

まつものの遠本の志つくのあるまし

まつとしのうちにえらて絶

出羽
阿部
長翁

おちこち法の身まかりたまふよし告こし給ひ

はるかに遠き国へ旅立ちける身の事に

月ころしのひぬる世をおもひけれ

うつゝに神の声かゝくまゝさまさ

ゆくすゑむかしの人の云おきし出のやま

天と地よりつきさたえぬ繁

祐定妹
豊子

法のおほち石翁大徳病にふし給ひぬるよし

聞こえ玉葉の草庵につけおこせ給ひけれは

いまさまりしかりそめにもや小郎の姉くる

思ふ玉のしるしのしなぬあまりに

同人母
妙定

神に祈る露はやすらぬ祈りかな

秋いつことにくさて秋にはあれ

遊阿嗣法
祐國

九月九日三七日はいむひにあたりたれハ法の極あるを

前我はくれもむの候えたれとも見

むかしたをぬりたる見るもあるを筆はて

まかはれるとやたのまれぬ世哉

遊阿

師兄小祥忌はを向に各留半坐浄華臺待我

間浮同行人をつるる式

月をまつきこえにかいはめく

うき世の秋はて友や待らむ

台運隠居
法誉

南無阿弥陀仏に秋懐旧を云て

時浄土十楽を歌て快楽無退楽の式

世の秋にたくふものうてあれ樹の

葉紫のむしや月の松ひら

遊阿

色はまれおもひけ今にものあるを雖也やはね

まさて聖衆来迎楽をつるる式

うきの月もたるにうけ侍

不のうに面ふ

あ家

[illegible]

時浄土十楽を歌て快楽無退楽の哉

世の秋にたゝぬものとてあれ樹の
実紫のむしやり月の姿ひら

遜阿

[illegible]

[illegible]聖衆来迎楽[illegible]哉

[illegible]の月[illegible]

不の[illegible]れ松風

[illegible]

聞称之氏我和尚往生浄土之蓮坐
知望浄土近而田信土来困十念新急八
達蓮華尊高堂傳燈匠之光燈携祥妙
樹彩為弘教示知慈悲示正之深淵之妙
韶浄露照淵法白日光影光秋色名清風
義深悪光覚月而法為写影吟詠意位誠

此山東照寺和尚之稿

弘化乙巳清秋

九華清洪書

予在江戸凡四十年矣往還于奥东之道已不故
山舊交又親者皆之世矣独 祐昌上人久住観音寺之
在於高舘山腹四望壮観之地也予曽寓桑於肆
提此寺相共賞花吟月雖無何時不到也弘化乙巳秋晩
又来自江戸到此寺何討吊 上人没後烏呼遠
弔郷里追思昔遊猶在心目又崩山決塘之悲
哀奄忽可復道哉因賦此詩

落葉橋頭恨到遅尋山間寂欲
霜時遺吟濺淚不堪讀只見墳
前黄菊垂

村上正徳拝題

予在江戸凡四年雪往還于奥东三度已而故山舊交親戚皆亡世矣獨　祐昌上人久住觀音寺ニ在於高館山腹四望壯觀之地也予曾寓柔彩驛旋此与相共賞花吟月殆無時不到也江化ニ已秋晚又來自江戸到此与何計吊　上人後後烏啼呼遠斗緑里追思昔游猶在心目ニ又崩山決塘之悲哀奄忽可復道哉因賦此詩

落葉槁頭恨到遲郊山閒寂欲霜時遺吟濺淚不忘讀只見墳前黃菊垂

村上正德拜題

祐昌上人之內兄辰其友人也

追悼

遠山一逝迄三秋不復向應
山湖遊同社友人哀慕切
敬傷歎者共懷慈

愛士定齋

詩大世山五歲故石為
之人

十載星霜夢一回孤棲
寂寞長蒼苔聚喜來
之大世冥猶五樓花法
重冥

重冥安藤昭

昭和學園短大
第6356
受入
昭36 3.14

東機集形成て校正に上下の巻丁数甚多寡ありてよりて
別冊となるべき所著の歌集を下の巻は初め納めて雅一巻を
出宝しく素覧に供ふるを集中四季分類紀行歌
もつけ神祇雑躰の種々に分ちて社衰幼学の道
たよる一助ふかきまれを愚考の老婆心なるを

追補混雑

葬や蛍いかるる寺は咒　信夫　珠屑
廣屋や初ふる秋の柴、　素五
ちるもかふかのふきかふる、　豊泉
蓑笠や雨あるふる風の水、　如流
宿借て月くる秋の野菜哉、　李渓
時雨ふるくれる幼き角力小　梁川　六翠
形に流るるの本のかふる、　泰柳

右九名の異体句稿ホ入て高集に脱せるあれば追加しつる後考

追補混雑

葎や是ハ何まる寺の跡　信夫 珠居

廣庭や何ふなりし秋の蝶　桒五

とうろうがかに桐の葉も仕舞かな　豊泉

蕣咲や庭へあふるゝ風呂の水　如流

宿見てはやく晴る霧の新藁かな　李渓

聞きゝくれまた細き角力取　深川 六翠

風ら形りに流るゝ木の本の坂かな　泰柳

右諸子ハ集後名州稿ニ入て当集に脱せしあれハ追彫してと成ぬ